



先手を打って 日本のEEZ (排他的経済水域)を 護れ

おぼえているでしょうか？

2017年の10月号に『魚屋さんからスルメイカが消えてしまった』という記事を書いた。

日本のEEZ（排他的経済水域）内に侵入した北朝鮮の違法漁船が我が国の豊かな漁場である「大和堆（やまとたい）」で違法操業をしている、というものだ。

日本の水産庁のまとめたスルメイカの漁獲量調べではかつて10年前までは20万トン獲れていたものが年々減ってきていて、

2012年に15万トン

2015年は11万トン

2016年は4万トンと激減していた。

2017年に日本の議業関係者から北朝



北朝鮮のミサイルに どのように対抗すべきか？

日本の「領内パワダイス国会議員」たちが「森友」だ、「加計」だ、とバカな国会議員を絞っているうちに、北朝鮮のミサイルは日本を通過し太平洋に落下した。

北海道の稚鹿岬から1180キロ地点の太平洋。
家軍基地のあるタムヘ4発のミサイルの同時発射を予告していた北朝鮮の「列上げワン」に日本はまんまと騙された格好だ。

しかし、悪い事だけではない。「アラート」の不備が判明したこと。さらには「北朝鮮の言うことを真に受けたりしない」ということが分かった。日本の上空を飛来するミサイルを打ち落とす能力を我が自衛隊は持っていない、ということがはっきりした。そのかわり、政府は「物陰に隠れて両手で頭を隠してうそまくれ」というのだから、日本国民は政府から全く守られていない、ことが明らかとなった。

不思議なのはこの期に及んで、日本では「私たちが国民の生命、財産を守ってください」という声が上がらないことだ。マスコミは報道すべき使命を果たしていない。

すると、いた、いた、 格好の批難対象が…？!

日本の排他的経済水域（EEZ）にある日本海の「大和堆（やまとたい）」周辺での北朝鮮漁船による違法操業を発見!!。

海上保安庁は7月上旬に監視船を派遣し、延べ約820隻に警告、EEZ外に排除したと発表。

以来、現場海域では8月中旬以降に北朝鮮漁船はほとんど確認されなくなった。尖閣諸島を領海侵犯する中国についで北朝鮮の漁船が比較的海上保安庁警告に従うのは、15年前に北朝鮮の漁船を海上保安庁が追跡して沈没させたことがあったからだろう。

和雄は男鹿半島から西に約400キロ水深が1000メートルより浅くな

我が国の好漁場、春と秋にはし、舟艇から多くの北朝こなった。

警備を派遣して現場海域では早い時期かられたため、日本漁船買への対応が必要とら大型監視船を含して、水産庁とていた。

日50隻から百数巡視船の船外スチン等がEEZ外に露や露向性が(LRAD)に

よる大官警の警告を実施した。また、複数の監視船で取り囲んで威圧したほか、遠去警告に反わない場合は監視船に設置した放水銃の放水で移動させた。今回の派遣でEEZ漁業違反での北朝鮮船の摘発はなく、放水による沈没などもなかった。

海保は、現場海域を管轄する第9管区海上保安本部（新潟市）だけでなく、第2管区（宮城県塩釜市）、第7管区（福岡県九州市）、第8管区（京都府舞鶴市）以降も水産庁と連携して適切に対応している。

船に放水する海上保安庁の監視船

鮮の漁船が違法操業しているとの通報があり、『海上保安庁』は日本のEEZ（排他的経済水域）内に侵入した北朝鮮の違法漁船を出てゆくように説得。

説得に応じない漁船には放水するなど警告をしている。

7月から12月までの半年間で警告したその数はなんと1923隻。

10月号で書いた時点より警告隻数で1103隻増えている。

北朝鮮の違法操業に先手 大和堆に海保巡視船を前倒し投入へ 来年漁期、政府方針

日本の排他的経済水域（EEZ）にある日本海の好漁場「大和堆（やまとたい）」周辺での北朝鮮漁船による違法操業問題で、政府が平成30年のスルメイカ漁期、取り締まりに当たる海上保安庁の巡視船を今期より前倒して投入する方針を固めた。



日本漁船は昨年、北朝鮮船に操業を妨害されるなどして現場海域を離脱。

海上保安庁の巡視船を早めに出動させるなど日本漁船の安全操業を確保するための予防的措置として先手を打つ。

漁業関係者らによると、北朝鮮船は大和堆で数年前から目撃されている。2016年の秋には多数の船を確認。

全国いか釣り漁業協会の要請を受けた日本政府は今年、海上保安庁の派遣を決定した。昨年、海上保安庁の巡視船が現場海域に到着した7月上旬の時点では多数の北朝鮮船が違法操業であり水産庁の手が回らなかった。

日本漁船は6月上旬に大和堆付近に出漁したが、海上保安庁の到着前に日本の漁船は北方に避難していた。北朝鮮の木造船が流した網をプロペラに巻き込めば航行不能になる恐れがあったためだ。日本漁船の集魚灯に集まるイカを横取りされる妨害にも遭った。

漁場を追われた日本漁船は昨年、大和堆周辺でほとんど操業せず、北海道沖で漁を継続。イカの南下に合わせ、11月に大和堆に向かった際も北朝鮮船がいたため、再び北方に戻ったという。

海上保安庁は7月に延べ724隻に退去警告、EEZ外に排除。北朝鮮船がいなくなった12月中旬までの延べ1923隻の約4割に相当する。

日本政府は後手に回った昨年の実態を踏



まえ、今年は早期の対応が必要と判断した。

各地の漁業団体は今年、国に安全確保を求め、海上保安庁も対策の徹底を確認。関係者によると、北朝鮮船は昨年、EEZ外に退去後も境界付近にとどまり、侵入を繰り返した。海保は来期、日本漁船への北朝鮮船の接近を防ぐ態勢を取るという。

海保関係者は「日本漁船と北朝鮮船の位置を確認して、巡視船を慎重に操船する必要がある。排除するよりも困難な任務になる」との見方を示した。

【用語解説】大和堆と違法操業

大和堆は秋田県の男鹿半島から西に約400キロの水深が急激に浅くなる海底地形で、日本のEEZ内にある。海流の影響を受けてプランクトンが豊富で、ス

ルメイカなどが取れる。国連海洋法条約はEEZ内の水産資源の管理権限を沿岸国に認めている。日本は北朝鮮と漁業協定を結んでおらず、日本のEEZ内で操業する北朝鮮の漁船はEEZ漁業法違反になる。

『ワイズからの提案』

北朝鮮の漁船は北朝鮮軍の配下であり、大型の船で木造の漁船を数隻ずつ曳航して日本の大和堆にやってくる。北朝鮮は沿岸の漁業権を中国に売り払い、売り払った金で核弾頭付きのミサイルを開発しているのだそうだ。

ここはしっかりと自衛隊の護衛艦並みの海上保安庁の船を出して対処すべきです。